

第20回記念 小学生のぼうさい探検隊 マップコンクール

地域を学び、未来へつなぐ

交通安全

防災

防犯



ぼうさい探検隊の詳細は「特設サイト」をご覧ください。

ぼうさい探検隊

検索

一般社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
アイベット損害保険株式会社
アクサ損害保険株式会社
アニコム損害保険株式会社
イーデザイン損害保険株式会社
AIG損害保険株式会社
エイチ・エス損害保険株式会社
SBI損害保険株式会社
au損害保険株式会社
キャピタル損害保険株式会社

共栄火災海上保険株式会社
さくら損害保険株式会社
ジェイアイ傷害火災保険株式会社
セコム損害保険株式会社
セゾン自動車火災保険株式会社
全管協れいわ損害保険株式会社
ソニー損害保険株式会社
損害保険ジャパン株式会社
大同火災海上保険株式会社
東京海上日動火災保険株式会社

トーマ再保険株式会社
日新火災海上保険株式会社
日本地震再保険株式会社
ペット&ファミリー損害保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
三井ダイレクト損害保険株式会社
明治安田損害保険株式会社
楽天損害保険株式会社
レスキュー損害保険株式会社
2024年1月31日現在(会員会社29社50音順)

第20回記念 小学生のぼうさい探検隊 マップコンクール



目次

1 ご挨拶

一般社団法人 日本損害保険協会
会長 新納 啓介

2 20年目の節目にあたり、活動にご尽力いただいた方々からのメッセージ

室崎 益輝氏(神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授)
木下 史子氏(文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官)
沖縄県子ども生活福祉部 消費・暮らし安全課
木原 要子氏(元小学校長)

4 全国の指導者の方々からのメッセージ

6 グラフで振り返る20年 小学生のぼうさい探検隊マップコンクールの変遷

- 応募マップ数、参加児童数の20年間の推移
- 参加団体数の20年間の推移と構成比
- 都道府県別 応募マップ数、参加団体数/構成比(第1回~第20回累計)
- 参加団体構成比(第1回~第20回累計)

8 子どもたちの提言・要望等がまちの改善につながった事例

- 神奈川県横浜市「汐見台小学校 汐見台パトロール隊」
- 三重県津市「北川家 北川ブラザーズ」
- 奈良県大和郡山市「日本ボーイスカウト奈良県連盟 大和郡山第1団カブスカウト隊」
- 沖縄県那覇市「東浜ぼうさい探検隊」
- 三重県鳥羽市「安楽島子ども会 安楽島キッズ探検隊」
- 福島県相馬市「川原町児童センター みつばち防災探検隊」
- 茨城県つくば市「Kids Creation Afterschool」
- 愛媛県愛南町「柏小学校 チームZAKI」

10 活動事例 石川県かほく市子ども会

- 「子ども会指導者」からのメッセージ
宇ノ気支部七窪子ども会 会長 前田 淳さん
七塚支部木津よつば子ども会 会長 金木 千春さん
- 「子ども会担当者」からのメッセージ
かほく市教育委員会 生涯学習課 池島 里穂さん
- 「かほく市」の紹介
- 「子ども会」の紹介

12 タブレットを活用したデジタルマップづくり

- タブレット導入の経緯・概要
- デジタルマップづくりの事例紹介
沖縄県豊見城市「なないろ児童クラブ」の紹介
《インタビュー》なないろ児童クラブ 金城 有希さん

ご挨拶

一般社団法人 日本損害保険協会
会長 新納 啓介



はじめに、令和6年石川県能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。私ども損害保険業界といたしましても、皆さまのお力となりますよう、被害状況の把握に努め、皆さまからのお問い合わせ・ご相談等に親身にお応えするとともに、保険金の迅速なお支払いに全力で努めてまいります。

さて、2004年にスタートした「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」は、2023年度で20回を迎え、今年度は、過去最も多い658団体からご応募いただきました。ご応募いただいた皆さま、誠にありがとうございます。

今年度は、国内のみならず、タイ・カナダからもマップのご応募がある等、「ぼうさい探検隊」は今までも増して幅広い層で展開されております。

我が国全体の状況に目を向けると、地球規模での気候変動を背景に、風水災の激甚化・頻発化傾向が続いております。また、地震についても、今回の能登半島のものをはじめ、毎年のように発生しており、今後は首都直下地震・南海トラフ地震の発生も危惧されております。このような環境下において、当協会は、「自然災害は避けることこそできないものの備えることはできる」ということを一人でも多くの国民の皆さまに知っていただくために、防災・減災、事故防止の啓発活動に注力してまいりました。

「ぼうさい探検隊」は、当協会の代表的な啓発活動であり、これまでに延べ22万人を超える小学生の皆さんから、約3万5千点ものご応募をいただいております。また、この活動は子どもたちの安全に対する意識を引き上げるだけでなく、まちにおける危険な場所の改善に役立っております。具体的には、マップを作成する中で気づいた危険箇所について行政等への要望・提言を行った結果、地域の安心・安全につながった事例を多数ご報告いただいております。

当協会としては、防災・減災、事故防止の啓発に向けて、今まで以上に、「ぼうさい探検隊」をきっかけとした「多世代・地域ぐるみ」での安全教育に取り組んでまいります。

本活動を今日まで続けて来られたのは、ひとえに日頃からご支援いただいている内閣府、文部科学省、警察庁、消防庁、気象庁等の行政機関、小学校等の教育関係機関、その他関係団体や地域の皆さまのご尽力の賜物であり、改めて深く感謝を申し上げます。

今後とも、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう何卒よろしくごお願い申し上げます。

20年目の節目にあたり、活動にご尽力いただいた方々からのメッセージ

ぼうさい探検隊への賛歌

室崎 益輝氏



毎年、「ぼうさい探検隊」のマップが届くのを、ワクワクした気持ちで待っています。子どもたちのすばらしい感性と安全への熱い思いが、そこから感じ取れるからです。そのマップの中に込められた子どもたちの提案から、安全な未来社会への道筋を私が教えられることも、少なくありません。

子どもたちが変われば、その家族や大人たちが変わります。子どもたちと共に大人たちが変われば、地域社会が変わります。子どもたちは、安全な社会を築く上での大切な原動力です。現場を歩いて、防災の課題やヒントを見出し、それを見える化してマップにまとめることは、安全への羅針盤を示すことに他なりません。その羅針盤づくりのパイオニアとして、子どもたちが活躍してくれているのです。

このマップづくりには、4つの大切なポイントがあります。そのキーワードは、「現場、協働、交流、改善」の4つです。現場に出て危険を感じることを、友だちと協働して学びあうこと、地域の人と交流をはかること、気づいた危険の改善に取り組むことの、4つです。この4つの基本的課題を、子どもながらに見事にやり遂げています。子どもの素直な目が、それを可能としているのです。

自然を大切にしようとする思い、高齢者に寄り添おうとする思い、まちを大切にしようとする思い、そして何よりもみんな安心できる社会をつくらうとする思いが、子どもたちからひしひしと伝わってきます。この子どもたちの思いを、しっかり受け止めなければなりません。このマップづくりから、多くの花や希望が咲いたと思っています。

私は審査員としてまた伴走者として20年間にわたり、このすばらしい探検隊のマップづくりに関わられたことを光榮に思っています。探検隊の皆さん、ありがとう。

室崎 益輝氏(むろさき よしてる)

【神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授】

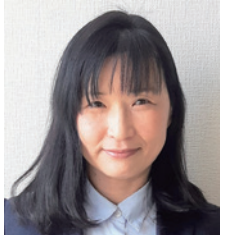
1944年兵庫県生まれ。京都大学建築学科卒業。工学博士。神戸大学都市安全研究センター教授、関西学院大学災害復興制度研究所長、兵庫県立大学減災復興政策研究科長等を経て現職。地区防災計画学会会長、日本防災士会理事長、ひょうごボランティアプラザ所長、海外災害援助市民センター代表等を歴任。専門は、建築防火、都市防災、減災復興。現場主義と総合主義の目線で災害に向き合うことをモットーにしている。

「防災を通じた教育」としてのマップづくり

小学生のぼうさい探検隊マップコンクールが第20回を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

自然災害が頻発する我が国において、子どもたちが災害について学び、いざというときに的確に判断し行動できる力を身に付けるための防災教育は必要不可欠なものです。令和4年3月に閣議決定された「第3次学校安全の推進に関する計画」の中でも、地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育の充実が言及されています。マップづくりは、子どもたちがまちを歩き自分で調べることを通して、地域を知り災害リスクや安全対策について考え学ぶことができる非

木下 史子氏



木下 史子氏(きのした ふみこ)

【文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官】

兵庫県姫路市出身。岡山県公立小学校教諭。2011年4月から岡山県教育委員会で学校安全、学校文化、社会教育を担当。うち3年間、岡山県で県警察と協働で「子供の安全対策」を推進。2023年4月から現職。

常に有効な手法です。子どもたちがまち歩きをすると、地域の方から温かい声掛けや地域の安全を守る取組みに気づくことができます。マップづくりを通して、防災だけでなく郷土愛や地域を担う意識を育む効果も期待されています。

最後に、活動時間の確保や指導者の共通理解を図ること等、マップづくりは関係者の皆さまの意志と努力があってこそ成り立つものです。本コンクールの長年の取組みにより、こうしたマップづくりの活動が全国の各地域に広がっておりますことに心から感謝申し上げますとともに、今後のさらなる拡大・発展に期待いたします。

安全マップで連携を図り、取組みの効果を期待

小学生のぼうさい探検隊マップコンクールが20周年を迎えられますことに對し、心からお喜び申し上げます。

沖縄県では、子どもたちの犯罪被害回避能力の向上等を目的に、子ども地域安全マップコンテストを実施しており、本コンテストの応募と併せ、小学生のぼうさい探検隊マップコンクールの応募手続きを行っています。

子どもたちが地域を探検し、テーマに関して直接見たり、聞いたり、感じたことをマップで表現することによ

沖縄県子ども生活福祉部 消費・くらし安全課



ちゅらさん運動

沖縄県子ども生活福祉部 消費・くらし安全課

災害救助法の適用、交通安全運動の推進、犯罪被害者等支援、NPO法人設立認証、消費者行政等、県民生活に関連する分野を所管。

安全で安心して暮らせる沖縄県の実現を目指し、県民、事業者、行政が一体となって、「ちゅらさん運動」を推進。

本運動の一環として、「沖縄県子ども地域安全マップコンテスト」を実施し、優秀作品に選出された団体・グループについては、表彰式において知事等から表彰。

て、子どもたち自身にも新たな発見や気づきが生まれており、自主性、主体性の発揮に効果が表れています。

また、子どもたちによるマップづくりを通して地域に一体感が醸成されており、地域住民の安全・安心に対する意識も高まってきています。

今後とも、本県の地域安全マップコンテストとぼうさい探検隊マップコンクールが相互に連携を図り、子どもたちに挑戦の機会を提供することにより、取組みの効果を発揮していくことを期待しています。

「ぼうさい探検隊活動」と出会えたことに感謝しています

木原 要子氏



木原 要子氏(きはら ようこ)

【元小学校教員】

愛媛県愛南町生まれ。愛媛県公立小学校教員として南宇和郡や宇和島市で勤務し2019年3月定年退職。その年の7月から損保協会四国支部防災博士(防災アドバイザー)の委嘱を受ける。

2008年度から、学校における防災教育に取り組み始めるとともに、防災マップを作成してマップコンクールにも出品。これまでに勤務校以外の学校も含め24校で防災学習会や防災マップづくりの指導・支援に当たる。「ぼうさい探検隊活動」に取り組んだ児童は、いつか災害から地域を守る力になると信じて……。

「ぼうさい探検隊活動」に取り組んで16年目。学校教育の中で小さな小さな“防災の種まき”を続けています。

災害や防災・減災の仕組み等を学習した児童と一緒に地域を歩き、危険箇所や災害時に役立つ「ひと・もの・こと」を見つけていきます。気づき、考え、判断したことや調査結果等を地図上に表現します。防災マップが地域の状況や児童の思いに沿ったテーマとしてまとまるように寄り添って作っていきます。これらの活動の中で、児童は新たな地

域発見や課題を見つけ、自分たちでできることを実践したり気づきを提案したりするようにもなります。児童の達成感、防災意識の向上や行動の変化として表れてきます。そんな児童の姿は地域の防災意識を高め、自主防災会を立ち上げた地域もあります。

退職した今も、防災アドバイザーとして、この有意義な活動を紹介したり指導・支援に当たったりしています。

この20年の素晴らしい足跡がさらに発展することを心から祈念します。

大分県・吉野児童育成クラブ
主任指導員 古庄 美枝さん



私たちは防災マップを作るために、ふだん何気なく歩いている所を意識して歩くようにし、さまざまなことに気づくことができました。危険な場所や安全な場所を把握することもでき、ブロック塀等高さのある所は地震で倒壊する恐れがあるため近づかない等、子どもたちならではの提案も出ました。また、災害が起きたときにどこにどうやって避難すればよいか等も、みんなで確認。より多様化する自然災害について学び、どうしたら自分やみんなの命を守ることができるのかを考え、対策等も勉強していきたいと思っています。

鹿児島県・T.Kキッズ
高橋 浩志さん



子どもが低学年から参加し始め、今年で3回目くらいになると思います。各作品のテーマに対して、子どもたちのイメージと大人がイメージする部分にズレがあり、毎回苦戦しております。引率の大人と同じ感覚を持つのは難しいようで、大人のほうから伝え、気づかせることが大事になると実感しております。また、昨年伝えたことを子どもが覚えているかを確認できるので、実践的な活動になっています。今後も子どもの成長を楽しみながら、参加していきたいと思っています。

沖縄県・ひばり放課後児童クラブ
池間 律子さん



20周年記念という節目に参加でき、指導員も子どもたちもうれしく思います。マップコンクールを通して、子どもたちの防災に関する意識も年々高くなり、毎回、子どもたち目線の新しい発見に、私たち指導員もいい刺激を受け、勉強させていただいています。これからも、子どもたちと一緒に防災マップづくりに取り組んでいこうと思います。

沖縄県・北山学童
中川 謙太郎さん



仲間と共にマップを作る過程では、仲間とのコミュニケーションが不可欠です。また、仲間との協力や共感、自己主張は、社会的スキルを向上させ、マップが完成した際に得られる達成感と自信は、小学生にとって貴重な経験となります。このマップづくりを通して、安全への意識が高まる等、子どもたちの成長を実感します。これからも、このコンクールが続いていくことを願っています。

第20回記念 小学生のぼうさい探検隊マップコンクール

全国の指導者の方々からのメッセージ

山口県下関市立向井小学校
校長 早田 智博さん



本校の児童が、地域の方と一緒に「ぼうさい探検隊マップづくり」に取り組み始めて十数年になります。マップを作成することで、児童は自分たちの通学路の安全を、地域の方はまちの改善点を検討することができ、近年では、「今年のマップづくりはいつやるの?」という声が、子どもからも地域からも聞こえるようになりました。長年の取り組みにより、マップづくりは学校と地域を結ぶ懸け橋となりました。これからもマップづくりを通して、安全意識を高めていきたいと思っています。

石川県かほく市子ども会
宇ノ気支部 内日角子ども会
松本 亜紀子さん



昨年度、6年生全員で力を合わせ、ぼうさい探検隊マップを作成した経験が、今も子どもたちの生活の中に息づいています。中学校の登下校時に、新しくカーブミラーが設置された箇所について喜ぶ等、地区の交通安全を自分ごととして捉えられるようになりました。今後も、このようなすばらしい経験を通して成長することができる子どもたちが増えたらいいなあと思っています。

20回目を迎えた「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」。2023年度も全国の団体から数多くの応募作品が寄せられました。ここでは、日頃から子どもたちを指導されている皆さまのメッセージをご紹介します。

福島県相馬市川原町児童センター
所長 永井 清美さん



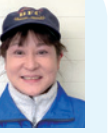
日本損害保険協会の「奥さま防災博士」の活動をしていた私がマップコンクールを知り、クラブの子どもたちに防災意識と自分の身は自分で守る力を身に付けてほしいとの願いを込めて、第2回から欠かさず参加しています。悪戦苦闘して締め切りギリギリに提出したマップが入選。子どもたちが提言したことが県を動かし、地域住民の役に立ったことは忘れられない思い出です。今ではコンクール参加はクラブの伝統となっています。これからも子どもたちと共に頑張っていこうと思います。

岩手県・中里放課後子ども教室
齊藤 裕美さん



子どもたちは、日本損害保険協会「ぼうさい探検隊マップコンクール」に取り組むことで、地域の危険性や防災対策に意識を配れるようになりました。防災の視点で地域を探検する子どもたちは、とてもイキイキとしています。危険性を知り、素直な気持ちで改善案を認めあってマップをまとめ上げたときには、防災はもちろん、地域愛や友情も育てています。これは、すばらしい事業です。大切な命を守るよう、これからも継続して子どもたちと活動していきたいと思っています。

北海道札幌南区
川治少年消防クラブ
部長 豊田 妙子さん

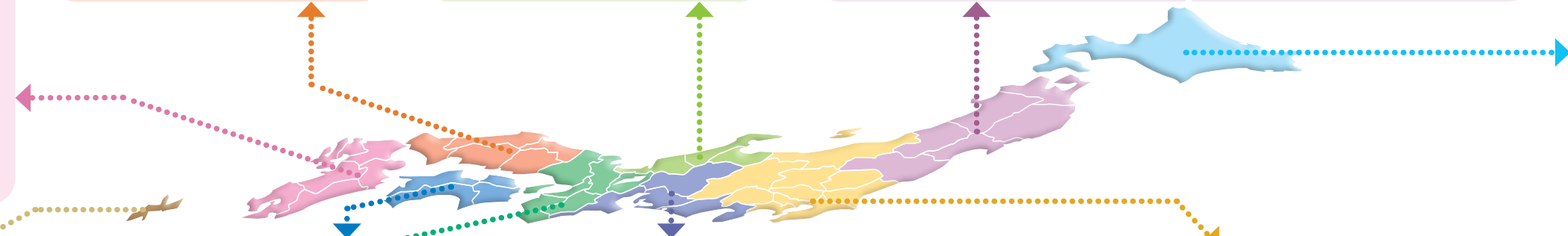


私たちは2013年度から13作品応募してきました。自分たちが住んでいる地域にはどのような特徴や施設があって、災害による被害はどのようなものだったか等を、みんなで歩いて見て回り、地域の方にお話を聞きました。一番心がけてきたことは、自分たちだけが知るのではなく、地域の方にも見て知ってもらい、少しでも災害時等に役立ててもらいたいということです。これからも地域全体で、楽しく役立つ活動を続けていきたいと思っています。



北海道奥尻町立青苗小学校
第3・4学年担当 松原 知未さん

私たちが住んでいる奥尻町は、北海道南西沖地震から昨年で30年の節目の年を迎えました。防災マップづくりでは、実際にまちを歩き、避難場所や避難ルート进行调查しました。問題や危険がある箇所については、目で見て分かったことや考えたことをマップに記載。整備状況に不備がある場所については、改善案をまちに提案しました。地域や行政と連携を図ることで、防災に強いまちづくりを目指して活動しています。



高知県土佐市立蓮池小学校
校長 吉門 直子さん



防災マップづくりは、子どもたちが地域を歩き、人と関わりながら調べることで、災害リスクや安全対策について自ら考え、学ぶことができます。また、防災教育を進めていく上で、非常に有効な活動です。さまざまな自然災害が頻発する現代、防災を自分ごととして考え、行動できる子どもたちを育成するためにも、本コンクールのさらなる発展を願っております。マップづくりが多くの学校で実践され、質の高い防災教育が全国の学校で展開されることを期待いたします。

愛知県豊田市立足助小学校
第4学年担任 藤原 全人さん



足助小学校は、「ぼうさい探検隊マップコンクール」に20年連続で参加しています。歴代のあすっ子たちは、防災マップを作成することで、災害時を想定した避難経路を確認してきました。今では防災マップを作ることは、足助小学校の伝統になっており、災害が起きたときにどのように避難できるのかをイメージできる、自分たちの生活に役立つ活動になってきています。今後もこの伝統が続いていき、次の世代へと継承していきたいです。

静岡県・ガールスカウト静岡県第34団
湯山 清美さん



私たちは4回目からの参加となりますが、私たちのマップづくりは、地震等の天災や不審者等から身を守るために始まりました。毎年、マップづくりに取り組みながら、富士山の噴火、御殿場市や小山町の災害の歴史も振り返り、課題を考えるようにしています。実際に自分の校区を歩き、自分たちができることを考えるのはもちろん、地球温暖化や新型コロナウイルス感染症等、時代に合った防災の意識を高めることもできました。このマップづくりの果たす役割は大きいと感じています。

埼玉県・ボーイスカウトさいたま104団カブスカウト隊
隊長 黒林 徹さん



私たちは2011年の東日本大震災の年から今回に至るまで、毎年応募しております。私たちのまちはさいたまスーパーアリーナがあり、老若男女さまざまな人が訪れるため、バリアフリーに力を入れているまちです。作成に当たり、身近でありながら意外に知らないまちのことを、子どもたちに教えられることもあります。また地域の消防署や警察署の皆さまとお話する機会を持つこともでき、貴重な体験をさせていただいております。これからも継続していきたいと思っています。

千葉県陸沢町立陸沢小学校
第4学年担任
今井 由記子さん



本校では、第4学年の「総合的な学習」の時間に防災学習に取り組んでおり、この地域で過去に起きた災害の様子や現在の備え、心がけること等について、地域の防災士と協働で学習を進めています。また、防災マップづくりを通して自分たちのまちの危険箇所や避難の仕方等への理解を深める一方、まちでも防災キャンプ等を企画。まち全体で防災に取り組み、防災意識を高め、自分の命は自分で守れる子どもの育成を目指しています。

大阪府・ガールスカウト大阪府第21団
団委員長 立木 靖子さん



第3回から参加し、スカウトたちが地域社会でさまざまな形で守られて暮らしていることを知り、子どもなりに何らかの役割を果たすことができないかという視点で取り組んできました。昨年は、水質検査・プラゴミ拾いと調査・外来植物調査・お魚調べ等に取り組んでいる糸田川の、外水氾濫対策の歴史と防災対策施設の現状を調査確認しました。さらに、内水氾濫ハザードマップを重ね、海拔高度を調べた自宅と最寄りの駅や避難所への安全ルートの確認をしました。よい学びの機会をいただき、感謝しております。

和歌山県
有田郡広川町立広川小学校
第3学年担任
西川 ゆうさん



広川町は防災意識が高く、ふだんから津波に備えて学習していますが、それは、自分たちでマップを作り、可視化をすることで、危険な場所を再認識することができるからです。より日本が安全になっていくよう、これからも子どもたち目線の分かりやすいマップづくりに取り組んでいきたいと思っています。

三重県・鳥羽市安楽島子ども会
濱口 敬司さん



「安楽島の子どももできるかな?」という軽い気持ちで「ぼうさい探検隊マップコンクール」に応募し始めて19年目。始めてみれば、大人も一緒に楽しんでいます。何をやっているのか分かっていないちびっ子でも、何度もまちを歩くことで、年々、まちを見る目がレベルアップしていることを実感しています。地図とペンがあれば、いつでもできる「ぼうさい探検」。もっともっと探検隊員が増えることを願っています。まちの防災を子どもが引っぱる安楽島!でした。

神奈川県・ガールスカウト神奈川県第53団
団委員長 外山 薫さん



初めてコンクールに応募してから18年が過ぎました。その間、小1から小6までの子どもたちが一列になって歩いてみると、年齢によって危険を察知する感覚が違い、子どもたちの気づきには大人では考えも及ばないような大切なことが含まれていることに気づかされます。こうした長年の積み重ねが、子どもたち自らが自分の身を守ることにつながっていることも教えられました。また、デジタルマップ作成では、危険箇所を伝える表現力の的確さに、日頃の防災活動の重要性を実感しました。継続は力なり!これからもマップづくりを通して、子どもたちの防災力を高めていきたいと思っています。

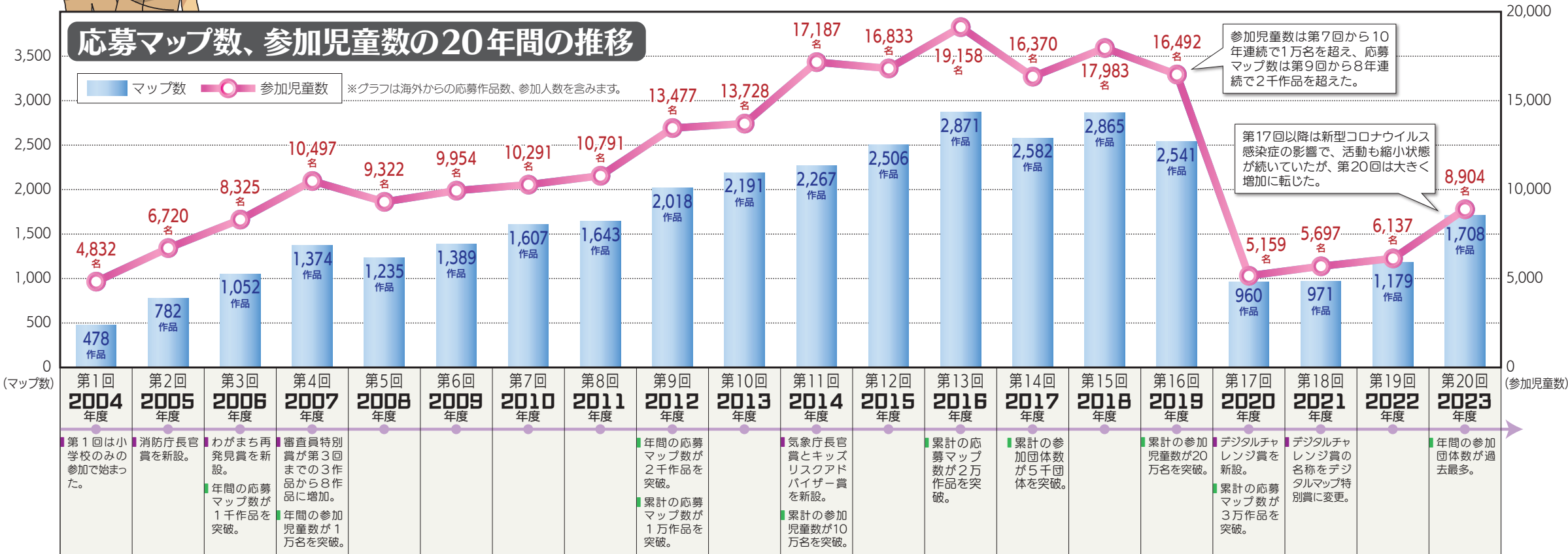




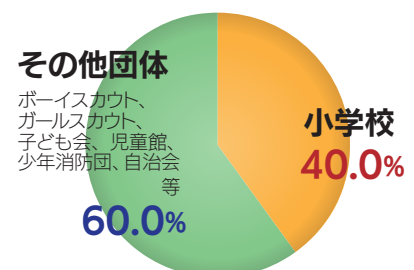
グラフで振り返る20年 小学生のぼうさい探検隊 マップコンクールの変遷

20年間の総応募マップ数 **34,219**枚、総参加児童数 **227,857**人、総参加団体数 **7,930**団体となりました！

応募マップ数、参加児童数の20年間の推移

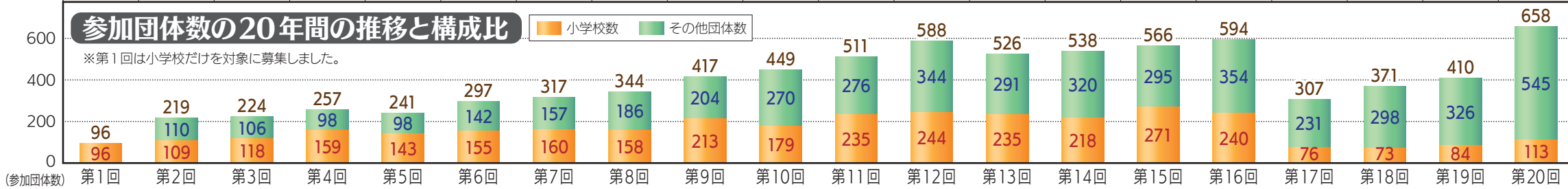


参加団体構成比 (第1回～第20回累計)

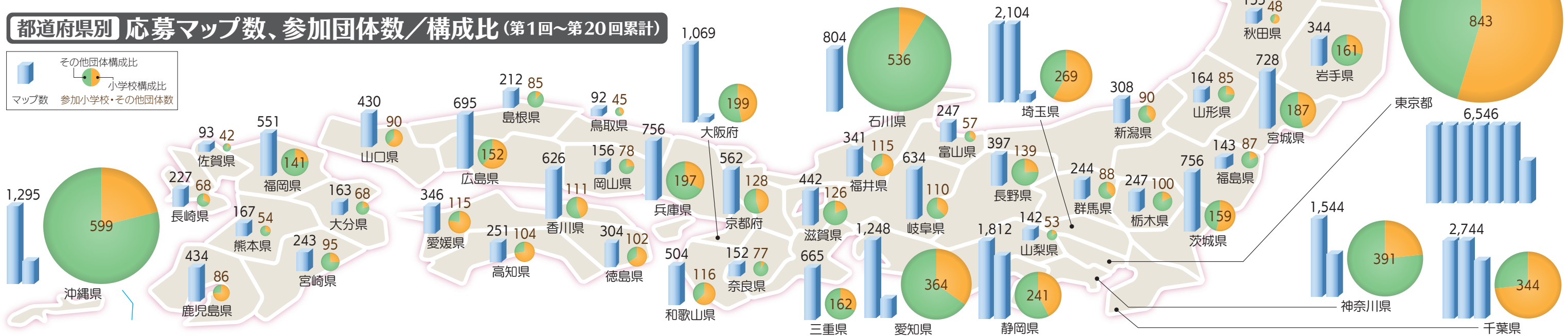


第1回は小学校だけを対象に募集しましたが、第2回以降は子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、児童館、自治会等の地域団体からも応募があり、取組みが広がりました。学校という枠組みを超えて地域に根付いた活動として定着しつつあります。

参加団体数の20年間の推移と構成比



都道府県別 応募マップ数、参加団体数/構成比 (第1回～第20回累計)





子どもたちの提言・要望等が まちの改善につながった事例

子どもたちは地域への愛着心を育み、人と人との大切な絆も育んでいきます



神奈川県横浜市「汐見台小学校 汐見台パトロール隊」

第16回マップコンクール(2019年度)「未来へのまちづくり賞」受賞

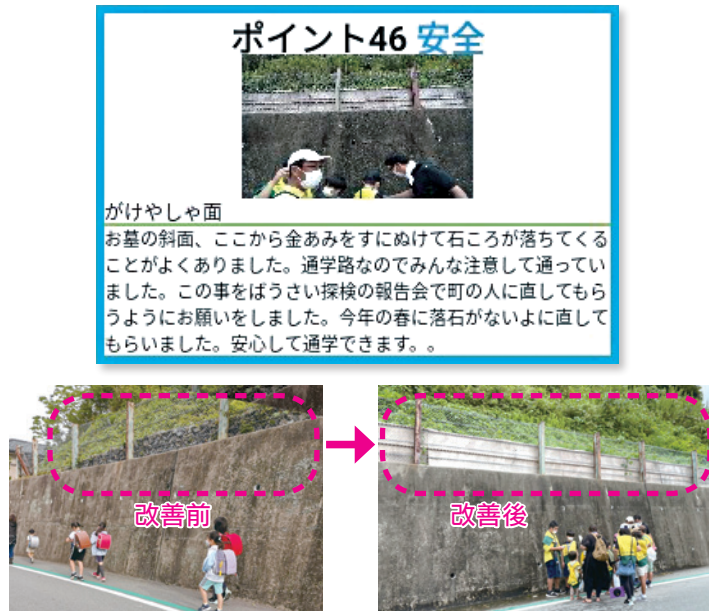


・夜間暗くて危険と感じる場所への対策を市へ提案したところ、新たに街灯が設置され、夕方歩行者に向けて鳴っていたクラクションも減りました。
・草や生垣で鬱蒼(うっそう)としていて怖いと感じた場所が重点的に剪定されたことで、見通しがよくなりました。

提言・要望

三重県鳥羽市「安楽島子ども会 安楽島キッズ探検隊」

第19回マップコンクール(2022年度)「デジタルマップ特別賞」受賞

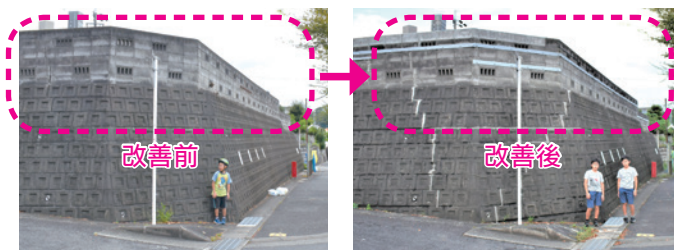
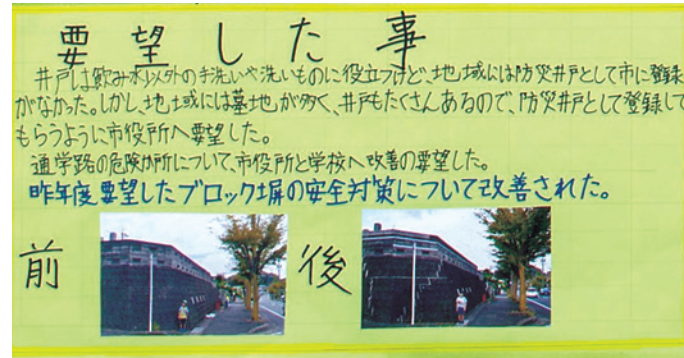


通学路にある墓地の斜面の金網から落石があり、注意して通っていました。このことを探検隊の報告会でまちの人に発表し、修繕をお願いしたところ、板を設置してもらえることができ、落石がなくなりました。

提言・要望

三重県津市「北川家 北川ブラザーズ」

第17回マップコンクール(2020年度)「文部科学大臣賞」受賞



後輩が安心して安全に通学できるようにと思い、通学路の危険箇所について市役所と学校へ改善を要望したところ、ブロック塀が金具で補強されました。

提言・要望

福島県相馬市「川原町児童センター みつばち防災探検隊」

第19回マップコンクール(2022年度)「文部科学大臣賞」受賞

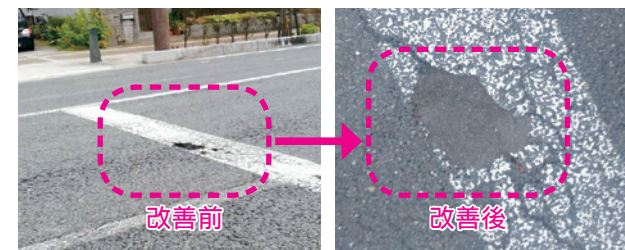


子どもたちが目の不自由な方たちの日常生活を知るために、点字ブロックや音響式信号機を調べていたところ、音が出ないことに気づきました。警察署へ連絡し、改善を要望したことで、早期の点検・修繕につながりました。

提言・要望

奈良県大和郡山市「日本ボーイスカウト奈良県連盟 大和郡山第1団カブスカウト隊」

第17回マップコンクール(2020年度)



まち探検中、道路に空いていた穴を発見し、警察の方に報告したところ、数か月後には穴が埋められ、改善されました。

提言・要望

茨城県つくば市「Kids Creation Afterschool」

第20回マップコンクール(2023年度)「まちのぼうさいキッズ賞」受賞



地域の防災標識にピクトグラムを取り入れ、誰にとっても分かりやすいユニバーサルデザインにすることをつくば市に提言しました。その結果、つくば市内のすべての防災標識が子どもたちの提案したものに一新されました。

提言・要望

沖縄県那覇市「東浜ぼうさい探検隊」

第19回マップコンクール(2022年度)「佳作」受賞



車が多く、スピードが出やすい道にもかかわらず、横断歩道に信号機がなく、危険であることを指摘しました。まずは自治会で週に1回交通誘導員が立ってくれることになり、その後地域の父母の協力も得られ、今では毎日大人が通学時間帯に立つ状況へと改善されました。

提言・要望

愛媛県愛南町「柏小学校 チームZAKI」

第20回マップコンクール(2023年度)「審査員特別賞」受賞



「共に助かろう」の思いで、避難時に避難したことを知らせる「命の黄色いリボン」を校区全戸に配布できるように400本製作しました。また、自治会の許可を得て、津波一時避難場所を知らせる「迷わず、避難」看板を製作し、地域の方と設置しました。

提言・要望



かほく市・市章

活動事例

市の推進事業と子ども会のマップづくりが児童の防災意識を高め、まちの安心・安全を実現

石川県かほく市子ども会

10年前から「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に応募しているかほく市子ども会。今回は51団体のうち42団体が応募しています。なかでも児童数が多い2つの子ども会の会長に、その活動や意義等をうかがいました。



「子ども会指導者」からのメッセージ

活動の一環として 6年生が安全マップづくりに挑戦！

—— 子ども会の組織や活動内容を教えてください。

前田 七窪子ども会は、宇ノ気支部に属する子ども会で、現在は小学1年生から6年生まで130人の子どもが所属しています。活動のメインイベントは9月の秋祭り。あとは資源回収等もやっています。

金木 木津よつば子ども会は、七塚支部に属する子ども会で、所属する子どもは115人ほどです。夏の盆踊り大会や祭礼等がおもな活動です。

—— そういった活動の一つとして、安全マップづくりを行っているというわけですね。具体的にはどのようにして安全マップを作ったのでしょうか？

前田 毎年6年生が作るのですが、今年も17人が参加してマップづくりに挑戦しました。テーマも、子どもたちの希望で「防災」になりました。当日は、近所を歩いて消火栓等を探して写真を撮る等、マップを作るための知識や材料を集め、午後からマップづくりを始めました。なんとなくリーダーみた

いな子が現れて、絵が上手な子や字がきれいな子、マップのような細かい作業が得意な子等に声をかけ、自然に分担が決まってくいった感じでした。みんなで和気あいあいと、楽しそうにマップを作っていましたよ。

金木 私たちの地区は、昨年1月に断水があって大変な思いをしたので断水をテーマにしようと考えました。私たちも6年生を対象に、2回に分けて安全マップを作りました。1回目はさまざまな専門家にお話を聞いて防災の知識を身に付け、2回目前には危険なポイントや断水で困ったこと等を調べ、安全マップに必要な写真も撮ってきておいてね、と子どもたちに頼んでおきました。そして2回目でマップを作ることにしたのですが、最初はみんなが自分のやりたいことを主張するのでまとまらなくて……。それでも2班に分かれて作ったマップは、作った子どもたちの性格がよく出たマップになりました。なにより子どもたちが楽しそうにやっていたのがよかったな、と思いました。

—— マップづくりを通して子どもたちの防災に対する意識は変わったと思いますか？

金木 自分の子どももマップづくりに参加したのですが、学校から帰ってくると「あの辺りに危ないところがあったよ」と話してくれるようになったり、「災害があったらここに逃げるのが安全か」ということを子どもが中心になって家族で話し合ったりすることも増えました。

—— ありがとうございました。



宇ノ気支部
七窪子ども会
会長 前田 淳さん



七塚支部
木津よつば子ども会
会長 金木 千春さん



ぼうさい探検隊活動
木津よつば子ども会



前田 かほく市には、防火・防災思想の普及を図ることを目的とした防災組織「かほく市少年消防クラブ」があるのですが、それに参加してみたいという子が増えているという話は聞いています。

—— 最後に、マップづくりの重要性と今後のあり方について、教えてください。

金木 安全マップを作ることで、子どもたちも防災に関するさまざまなことを意識するようになってきました。私自身もいろいろと勉強させていただきました。こういう活動はやめたくないです。子ども会に入っていないという体験はできません。学校や地域を巻き込んで、このような体験を広げていけたらいいな、と思っています。

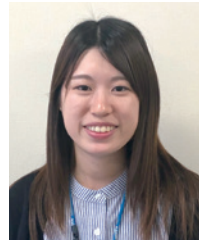
前田 安全マップを作ることで、子どもたちにもいろいろな気づきがあったと思いますし、危険な場所を察知する力もついたと感じています。実際にやってみなければ分からないことも多いので、こういった活動は続けていきたいと思っています。

—— ありがとうございました。

「子ども会担当者」からのメッセージ

市の防災教育の一つとして 積極的に推進

かほく市教育委員会 生涯学習課 池島 里穂さん



かほく市では、毎年9月にイオンモールかほくの駐車場で「かほく市防災フェスタ」を開催する等防災について学ぶイベントを実施しています。そうしたなか、10年前、かほく市子ども会が実施する「壁新聞コンクール」の担当者が、日本損害保険協会の「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」を見つけ、「応募してみよう」となったのがマップコンクール参加のきっかけだったようです。応募したのは、防災や防犯、交通安全は誰にでも身近な事柄で、マップを作りやすいと考えたのがいちばんの理由ですが、全国レベルで審査してもらえるという点も理由の一つだといわれています。10年続いているのは恒例になっているというのが大きいですが、近年は災害が多くなっており、防災への意識づけにはよいと考えているのも、理由の一つです。

そういう経緯でスタートしたマップづくりは、今では「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」への応募のみならず、かほく市独自でコンクールを開催するほどになっています。市のコンクールでは、各支部で審査してそれぞれ7作品を選択。3支部合計21作品を市で審査し、順位をつけます。そして、10月末に河北台中学校周辺で開催される市の文化祭「生涯学習フェスティバル」で、すべての作品を展示し、表彰式も行っています。

小学生の目線で作られたマップはめずらしく、文化祭で展示したあとは、公民館や小学校でも展示し、多くの人たちが見てくださっています。最近は災害の規模も大きくなっていますし、



生涯学習フェスティバルで展示の安全マップ

地震も頻発しています。安全マップを作ったことで子どもたちが知り得たことを、もっと多くの人たちに周知する方法を、私達も探していきたいと思っています。

「子ども会」の紹介

1,800人以上の児童が属し、活動も活発

かほく市子ども会には、高松支部、宇ノ気支部、七塚支部の3支部があり、所属する児童数は合計1,826人。今回取材をした七窪子ども会と木津よつば子ども会は所属する児童が100人以上とかほく市の子ども会のなかでも大きな団体で、活動内容は地域の祭りから安全マップづくり等多岐にわたります。近年子ども会に所属する児童は減少傾向であるものの、楽しみながら学べる安全マップづくり等は「地域ぐるみで今後も続けていけたらいいですね」と会長の2人は話してくれました。



木津よつば子ども会年中行事
「木津区秋季祭礼」



七窪子ども会年中行事
「地蔵尊祭り」



「かほく市」の紹介

金沢から電車で約30分の緑豊かなまち

石川県のほぼ中央に位置するかほく市は、西に風光明媚な日本海を望む緑豊かなまち。繊維工業を主要産業として市街地化が進み、高松町、宇ノ気町、七塚町は、明治・昭和の大合併を経て、2004年にかほく市となりました。県都金沢市とは、南北を縦貫するJR七尾線によって約30分で結ばれています。また、河北地域の新しい交通基盤として、2016年には河北縦断道路が開通しました。2023年現在の人口は約3万6,000人です。





タブレットを活用した デジタルマップづくり

安全教育をすすめながらICT 教育にも活用できます



タブレット導入の経緯・概要

4年目を迎えるデジタルマップづくり、ますます増加傾向にあります

安全マップづくりは、年々激化する自然災害や子どもたちが被害者となる事件の急増等から身を守るために大きな役割を果たす一方、マップづくりに向けた準備やまち探検の実施に多大な時間と労力を要するため、なかなか実施に至らないことが多い状況です。実際に、文部科学省が実施した令和3年「学校の安全管理の取組状況に関する調査」では、通学安全マップを作成していない学校が51.2%を占めています。

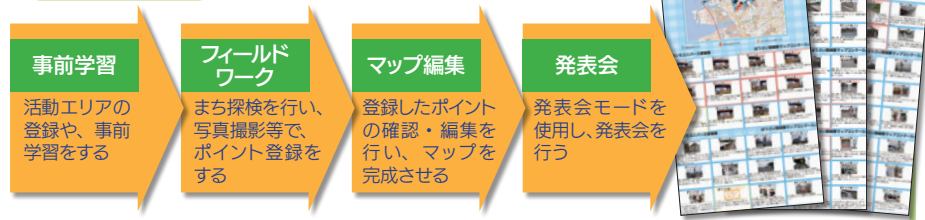
他方、2017年次に公示された学習指導要領からは、「情報活用能力」が「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、教育課程全体で育成するものとなり、ICTの活用の推進が図られるようになりました。

これらの教育現場における課題やニーズを踏まえ、指導者の準備負担を軽減し、子どもたちが簡単に楽しく取り組める効果を期待して、2019年に検討したのがマップづくりのデジタル化です。

ぼうさい探検隊の「まち探検アプリ」を搭載した専用タブレットを使用することで、これまで手作業で行っていたマップづくりを、専用タブレットだけで事前学習からマップ発表までを完結できるようになりました。

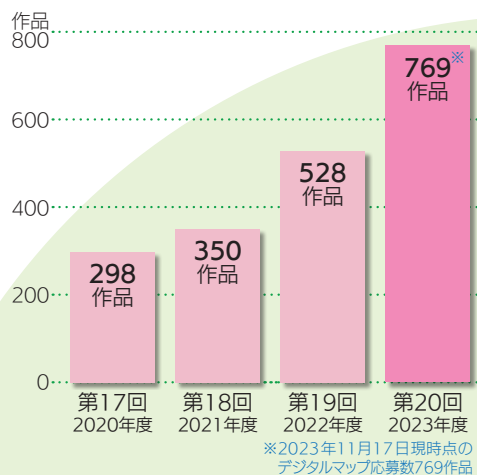
第17回(2020年度)小学生のぼうさい探検隊マップコンクールからデジタルマップ作品の募集を開始し、デジタルマップ賞も設けました。第20回までにご応募いただいた作品数は延べ1,900作品を超えています。

マップ作成手順



タブレットを使って安全マップづくりをする小学生

第17回～第20回までのデジタルマップ応募数 (参考作品を含む)



【タブレット活用数の変移について】

第17回～第20回にかけてタブレット作品の応募数は毎年増加傾向にあり、第20回では769作品にものぼり、第17回の約2.6倍まで増加しました。

文部科学省の「第3次学校安全の推進に関する計画」では、安全教育を効果的に実施するためには、体験活動を通じた学びやデジタル技術を活用した学びが有効とされており、安全教育においてもICTの活用的重要性は年々高まっていることから、ぼうさい探検隊におけるデジタルマップづくりが今後も安全教育の一助となることを願っています。

タブレット導入の魅力

タブレットを使ったマップづくりの代表的な魅力を3つ紹介!

魅力その①

地図や写真の印刷が不要になるため、事前準備が簡単になります。



魅力その②

フィールドワーク後、すぐに報告会・発表会を行うことができます。



魅力その③

タブレットを使ってマップを作成するため、ICT教育にも役立ちます。



デジタルマップづくりの事例紹介

過去4回連続でデジタルマップ賞を受賞!

沖縄県豊見城市「なないろ児童クラブ」の紹介

なないろ児童クラブは、沖縄本島南部の豊見城市に位置し、海側の地域から山側の高台の地域まで、幅広いエリアに住む約40名の子どもたちが集い、日々を過ごしています。沿岸からほど近く、また標高差があるという地域特性を踏まえ、防災意識の向上を目的として、毎年夏休みに「ぼうさい探検隊」活動を行い、地震・津波等の万が一に備えています。活動内容はその他にも、季節ごとの行事体験、子どもたちが企画から発表まで行う制作活動や遊び等多岐にわたります。



「なないろ児童クラブ」外観

インタビュー 指導者の金城有希さんにお話をうかがいました

毎年やる気あふれる新メンバーでマップづくりに挑戦!

なないろ児童クラブ 金城有希さん

—— デジタルマップづくりの事前準備から発表までの流れを教えてください。

まず、夏休み前に3、4年生を中心にマップづくりの希望者を募ります。メンバーを決定した後、探検に行くまでの事前準備として、調べるエリアと内容をメンバー全員で話し合います。子どもたちに責任感を持って取り組んでもらえるよう、探検するエリアを細分化し、担当を割り振ります。

探検はメンバー全員で出掛け、エリアごとに担当者がタブレットを使って写真撮影や文字の打ち込みを行い、マップを作成していきます。悩むことがあれば、メンバー全員で協力して意見を出し合い、タブレットに打ち込む言葉を選んだりすることでチームワークも育まれます。

完成したマップはクラブのみんなに発表します。防災や防犯意識を持つことの重要性をクラブ全体で再認識する機会になるとともに、地域の特性を知る良いきっかけとなっています。入賞時に

は、小学校の校長先生から全体朝礼で作品を紹介してもらったり、豊見城市市長への表敬訪問を行い、激励の言葉をいただいたりしました。また、表敬訪問がきっかけで、地域のラジオ出演や広報誌への掲載にもつながり、子どもたちの気づきを地域全体に発信することができました。

—— 第17回(2020年度)からはデジタルマップでご応募いただいています。デジタルマップの魅力を教えてください。

完成したマップをデータとして保存できるので、いつでも見返したり、発信することができ、伝え続けられることに魅力を感じています。また、デジタルマップは情報を豊富に入れ込むことが可能なため、紙マップを作成していたときよりも、より広範囲の調査と探究が可能になりました。さらに、地域の方々へインタビューを行った際の音声も保存できるため、よりリアルに伝えることができます。

子どもたちも、タブレット操作を楽しみながら取り組んでいる印象で、驚く

ほどの早さでタブレット操作を習得し、マップを作成しています。子どもたちの好奇心が学習意欲とスキルの向上にもつながっていると感じています。

—— デジタルマップを作成するうえでの工夫を教えてください。

マップ作成においては、どうすれば自分たちより低年齢の子どもから高齢者まで幅広い世代に伝わるかを第一に考えています。文字だけでなく、言葉でも伝えられるようにという思いから、コメントを入力するだけでなく、音声録音も行いながらマップを作成しています。また、写真撮影一つをとっても、アングルを考える等、子どもたち自ら工夫を凝らしています。

—— 最後に、金城さんのマップ作成に対する思いを教えてください。

過去4回連続、子どもたちの頑張りやデジタルマップ賞という形で評価されたことを大変うれしく思います。また、ぼうさい探検隊を通して、子どもたちが気づき、地域に提案してきたことが、すぐにはいかになくても数年をかけて改善されている事例もあり、子どもたちの地域に向ける視点や身の回りに対する小さな気づきが、まちの防災や安全へつながることを実感しています。

当クラブでは、より多くの子どものために取り組んでほしいという思いから、基本的に毎年新メンバーでマップを作成しています。上級生が真剣にマップづくりに取り組み、大勢の前で発表する姿を見た下級生たちは「自分もやりたい!」と毎年奮って参加を希望しています。

支援員として、これからも子どもたちのやる気を受け止め、学習意欲を高められるように工夫を凝らしたマップづくりを目指すとともに、地域の方々のご協力に感謝しながら、これからもチャレンジし続けたいと思います。

—— ありがとうございました。



津波避難訓練の様子



小学校の教頭先生へインタビュー



まちを探索する隊員



避難場所を確認



ライフジャケット着用訓練



クラブのみんなの前で発表会